



きの かわ ちょう やく し どう 木川町薬師堂

(滋賀県草津市木川町)

木川町の「薬師堂」には、木造薬師如来坐像（鎌倉時代）と、二体の木造毘沙門天立像が祀られていて、江戸時代には「毘沙門堂」と呼ばれていた。二体の毘沙門天立像のうち一体は、神仏分離以前には木川天神社に安置されていたといわれ、天神社の本地仏であった。

天神社は、大宮若松神社（草津市南山田町）とともに、『興福寺官務牒疏』に金勝寺の二十五別院の一つとして記される、金峰山寺の鎮守とされてきた。薬師堂の地は、金峰山寺の旧地であると伝えられており、薬師如来坐像や毘沙門天立像は金峰山寺の遺像とも考えられる。

近江国栗太郡木川村誌によれば、薬師堂は木川村の西にあり伝によれば、源義家のえい孫、山田友俊なる者が建立。古くは、延暦寺三千坊の一つであったが（もとの所在地、寺名などは不明）、元亀2年（1571）織田信長の兵火にかかり堂宇焼失する。本尊僅かに村民の守護を以てその災をまぬがれた。その後、古材を集めて現在の地に小堂を再興し、村内の安全仏としてきたという。

昭和17年以後、西遊寺の飛地境内となっているが、木川町の貴重な共有財産であり、敬けんな信仰の対象でもある。

《薬師堂の変遷》

- ・ 保延 3 年（1137） 建立
- ・ 元亀 2 年（1571） 焼失（本尊は災を免れる）
小堂を再建
- ・ 宝暦 3 年（1753） 薬師堂の再興
- ・ 明治21年（1888） 現在の薬師堂再建
- ・ 平成 6 年（1994） 薬師堂（屋根等）の修復

木造 毘沙門天立像

像高 97.8cm 鎌倉時代 (13世紀)

木川町薬師堂の本尊薬師如来坐像をはさんで安置される二体の毘沙門天像のうちの一体である本像は、もとは同じ木川町内にある天神社に本地仏として祀られていた。

明治初年の神仏分離によって、毘沙門堂（現在の木川町薬師堂）に移されたと考えられている。

本像は、寄木造で、頭部および体部それぞれ前後には2材を刳ぎ寄せている。



二体の毘沙門天立像の保管について

木川町薬師堂の、本尊薬師如来坐像と二体の毘沙門天像、併せて三体の仏像は、永らく薬師堂に安置されて村民の手で守られ、木川の安全仏として信仰されてきた。が、近年の治安上、防災上の安全確保の必要性から、平成10年（1998）8月27日に、三体とも栗東歴史民俗博物館に寄託し、保管していただくこととなった。ただ、薬師堂に一体も仏像が祀られていないことは不自然であり、甲斐もないことであるとして平成11年（1999）7月29日に本尊の薬師如来坐像のみ、元の薬師堂内に戻すことになり現在に至っている。



栗東歴史民俗博物館

栗東の歴史や、栗東と関わるさまざまなテーマについての展覧会を開催している。また、栗東の歴史や文化をかたるさまざまな資料について、調査・研究・資料収集を行っている。

場 所：栗東市小野223-8

（JR琵琶湖線「草津駅」東口下車 帝産バスで約10分）

電 話：077-554-2733

開 館：9時30分～17時（入館は16時30分まで）

休館日：毎月曜日（ただし、祝日の場合は開館）



木造 薬師如来坐像 (国指定重要文化財)

像高 87.0cm 鎌倉時代 (13世紀)



やくし るりこうによらい だいいおうぶつ
薬師瑠璃光如来、大医王仏とも呼ばれる。
しゅじょう
衆生の病苦を救ったり、内面の苦悩を除くなど、
せいがん
十二の誓願を立てられた如来である。

日本では七世紀の頃からその信仰がさかんである。平安時代以降、病気を治すことが第一のご利益であるということから、右に施無畏印（不安を除き心を安らかにする）を結び、左の掌に薬壺をのせた像が多い。

この薬師如来坐像は、両耳の後ろで前後2材矧と
よせぎづくり らほつ
するヒノキの寄木造で、螺髪は大きく彫り出され、
ちようげん
顔は引き締まっただ彫眼の堂々たる仏像で、髪際
の線が額の左右でわずかに曲線を描き、肉厚に残す
うちぐりほう
内割法などは、鎌倉時代の作になることを示唆す
る。像のところどころに造像当初の漆箔が残されて
いるところから、造立当初は漆箔製であったことが

うかがわれる。古くから「乳薬師」として村民から尊崇されてきた。現在、木川町薬師堂の本尊として祀られる。

木造 毘沙門天立像 (国指定重要文化財)

像高 102.8cm 平安時代 (12世紀)

びしゃもんてん たもんてん
毘沙門天というのは四天王の一つの多聞天であり、四天王とは、仏教的世界観の中で、その中心にそびえ
しゅみざん
る須弥山の四方を守る天として、東を持国天、南を増長天、
じこくてん ぞうちやうてん
西を広目天、北を多聞天がそれぞれ守護するという、須弥
こうもくてん たもんてん しゅみ
壇の四方に安置されているものである。また、毘沙門天は
どくそん
独尊として、福德と富貴の天としても信仰され、後世いわ
しちふくじん
ゆる七福神のひとつにも数えられている。

この毘沙門天像は平安時代後期の作で、宝髻を結び、甲
ちゆう
冑を着けて、左手を屈して宝塔を捧げ、右手に戟を執り、
しゅき
足下に邪鬼を踏まえる通形の毘沙門天像である。構造は、
うちぐり
頭体幹部をヒノキの一材より彫出し、内割は施さない。腰
を少し左に振り左足を軸足として、右足を少し前に出した
動きの少ない姿である。足下の邪鬼と岩坐は当初からのもの
である。全体的に重量感を感じさせるが、彫りは穏やか
で、体の動きや怒りの表現も控えめである。

本像は、本尊薬師如来坐像をはさんで安置される二体の
毘沙門天像のうちの一体である。この薬師堂は江戸時代には
毘沙門堂と呼ばれており、本像はかつての本尊とも推測
される。



常光寺跡

木川町薬師堂の隣にある常光寺は、慶長3年（1598）に浄土宗の寺として開基された。文化14年（1817）の明細帳に、「東西16間、南北16間、本堂は既に焼失してその後再建なく、無住となっている。本尊は二尺九寸の阿弥陀如来像」とある。天保15年（1844）の宗門改帳では徳照寺の住職が兼務されていると記されているが、小堂が存在していたと考えられる。その後、徳照寺も無住となり最明寺が兼務された。

文久3年（1863）常光寺跡地4畝24歩、本尊・寺号とも年貢手詰まりにつき、木川村に売り渡したとの記録がある。

仏像三体里帰り 特別公開

《公開期間 平成25年1月8日(火)～14日(月)》

平成25年9月、木川町薬師堂安置の重要文化財の毘沙門天立像が、東京の三井記念美術館で開催された「琵琶湖をめぐる 近江路の神と仏 名宝展」に、近江の代表的な仏像として出品された。多くの方々に鑑賞していただき、好評を博したことを記念して、永らく栗東歴史民族博物館に寄託していた毘沙門天二体は、期間を限って里帰りしていただき、三体揃っての特別公開を木川町内会主催で開催した。

開催期間中には、町内はもとより近隣の住民や市役所関係者など多くの方が参詣された。

八日薬師・金勝寺

三体の仏像は、薬師堂に安置され村内の安全仏として信仰されてきた。その現れが、八日薬師という風習であると考えられる。8日は薬師如来の「縁日（えんにち）」であるという。この薬師堂では年間2回、1月と8月の8日に栗東市の金勝寺（天台宗）の住職に依頼して、「八日薬師法要」を勤めている。いつの時代から始まったか定かではないが、毘沙門天立像が明治初年に現在の薬師堂に移されたとされており、それ以後に始まったのではないかと推測される。

木川町歴史年表

弥生時代 (紀元頃)	(伝説) 伊勢所・天照大神を伊勢に移す時に、土地の人が舟で迎えた所 (垂仁天皇十一代・前五)
古墳時代 (250頃)	
飛鳥時代 (550頃)	(社伝) 天神社・物部彦安が勧請(祭神 天若御子神) (推古天皇三十三代・六二八)
奈良時代 (710頃)	(木川郷) 七四五 天平十七年栗太五郷の一つ (木乃加波)
平安時代 (794頃)	毘沙門堂建立 (後の薬師堂) 十二世紀 作
鎌倉時代 (1185頃)	最明寺開基 五重層塔(最明寺) 十三世紀 作
室町時代 (1338頃)	薬師如来坐像(薬師堂) 十三世紀 作
江戸時代 (1603頃)	毘沙門天立像 十三世紀 作
明治時代 (1868頃)	(木川村) 天神社再興 一三三八(建武五年) 西乗寺開基 一五〇九(永正六年) 西遊寺開基 一五一〇(永正七年) 常光寺開基 一五九八(慶長三年) 一六〇〇(慶長五年)
大正時代 (1912頃)	三つ池造営 一六一五(元和元年) 白鬚明神・神木と鳥居 (江戸中期)
昭和時代 (1926頃)	近江国栗太郡木川村絵地図(明治六年) 木川学校開校 一八七五(明治八年) 薬師堂建立 一八八八(明治二十一年)
平成時代 (1989頃)	(木川町) 西遊寺改築 二〇一五(平成二十七年)

※木川町歴史年表は、馬場美二氏（木川町・元町会長）が、平成13年6月10日に最明寺前住職 木村 力氏の監修のもとに作成されたものである。今回、部分的に加筆、修正して整理した。

参考文献（資料）

「近江栗太郡志」「近江国栗太郡村誌 上」「草津市史史料集Ⅰ」「新註・近江輿地志略 改訂・校注」(宇野健一編)「角川日本地名大辞典25 滋賀県」「日本歴史地名体系25 滋賀県の地名」「草津の歴史と文化」「最明寺の歩み 一木川村の寺々」「最明寺 その歴史と信仰」

木川町薬師堂

■発行日 平成28年3月13日
■発行者 草津市木川町内会
(編集：久保 明雄)